

## 1 この科目の構成について

教 科	国語	科 目	国語総合	単 位	4単位
対象コース	情報ビジネスコース	対象クラス	1年6組		
使用教科書	国語総合（教育出版）				
使用副教材	体系古典文法（数研出版） 体系古典文法準拠ノート 修訂版（数研出版） 重要古文単語 305（尚文出版） 新明説漢文（尚文出版） 新明説漢文基本練習ノート（尚文出版）				

## 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	<p>国語の教科に求められるのは「明瞭かつ適切な表現力」と「合理的かつ客観的な思考力」、そして「分析的で的確な理解力」を習得することです。</p> <p>上述の三つの要素を向上させるためには、知識を蓄え、それを応用的に問題解決に用いることが必要です。知識とは、語彙力、文法理解、言語文化、歴史的意義といったものを記憶することです。記憶した知識を用いて、文章に記されている真意を読み解く手段として用いることが応用的問題解決です。この活動を通して言語感覚が磨かれていきます。さらには、知識の増大により、興味・関心の幅が広がり、今まで意識していなかった情報にも鋭敏になり、感受性と言語文化への関心が高まっていくこととなります。</p> <p>以上が本校の「国語総合」の目標です。</p>
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	<p>以下の四つの分野を学びます。(3)・(4)は1年次で特に力を入れて学習します。</p> <p>(1)現代の評論文…社会的事象に関心を持つと同時に、客観的読解力を身につけます。</p> <p>(2)近現代の文学的な文章…文学作品を味わうと同時に、登場人物の心情を的確に把握する力を身につけます。</p> <p>(3)古文…代表的な作品を通し、文章読解の基礎を学びます。また、文語文法を徹底的な演習を通じて身につけます。</p> <p>(4)漢文…漢文を読解するための基本となる知識・句法を身につけます。</p>
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	<p>(1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。ノートとは正答を記すためのものではなく、正答に至るまでの思考のプロセスを書き付けるためのものです。問題文（口頭での質問も含む）の意図を読み取り、思考し、答えを表現する「手順」を授業で体得してください。</p> <p>(2) 家庭 予習で次に習う部分を読み、読解（内容理解や口語訳）をしてください。授業でそれを確認します。復習は、習った事項の整理と暗記にあててください。</p>

## 3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	<p>(1) 定期考査 → 年5回実施します。授業での学習内容から出題します。また、関連する応用問題も出題します。</p> <p>(2) 小テスト → 漢字テスト・古文単語テストを実施します。</p> <p>(3) 長期休暇の課題 → 読書感想文・現代文・古文の演習問題を宿題として課します。</p> <p>(4) 学期中の課題 → 授業理解の確認のための宿題を課します。</p>
評価における定期考査の割合	
	70%

## 4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	<p>(1) 関心・意欲・態度 問題を解決しようとする意欲、つまり考えようとする態度を重視します。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 合理的であるか、根拠を示すことができるかが評価の軸になります。空理空論では評価の対象になりません。</p> <p>(3) 技能 口頭・文章ともに、受け手に配慮した簡潔明瞭な表現であり、文章の構成が整っていることを重視します。</p> <p>(4) 知識・理解 定着度だけでなく、知識を得ようとする日常の取り組みも評価します。</p>

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—	重視する評価の観点					
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容		関	思	技	知
1	4	<b>現代文分野</b> 評論（一）「水の東西」	評論の文章の流れをつかみ、筆者の思いや考えを理解します。抽象的な言葉や概念を具体例や言い換え表現を通して理解する読解方法を学びます。		●	●	●	●
	5	<b>古典分野</b> 古典文法入門 歴史的仮名遣い・文・文節・単語・活用のある自立語・	古典分野では現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いを確認します。文法の学習をすすめていくうえで文節のはたらき・品詞名は必ず覚えなくてはなりません。どんなはたらきの文節があり、どんな品詞があるのか、まとめて学びましょう。また、活用の種類・活用形、活用表の暗記など、新しい内容が出てきます。		●	●		●
	6	活用と活用形の主な用法・用言の活用 「児のそら寝」						
		<b>現代文分野</b> 小説（一）「羅生門」	短編小説のおもしろさを味わい、その鑑賞の仕方を学びます。すぐれた描写、効果的な表現を学び、想像力・感受性を豊かにします。加えて、小説の主題を自己の問題としてとらえ、考える力を養います。 <b>道徳教育を実施</b>		●	●		●
	7	<b>古典分野</b> 古文入門 付属語①（助動詞） 過去・完了・打消の助動詞 古文 物語を楽しむ「竹取物語」	よく知られた古文を読みながら用言の活用を確認します。この分野をしっかりと覚えなければ古典の学習は進められません。用言の活用形、活用の種類の復習、そして、古典を読む上では自立語のみではなく、付属語にも目を向ける必要性を感じ取り、文法の学習へと繋げていきます。		●	●	●	●
		<b>現代文分野</b> 評論（二）「自由の制服」	長めの評論を読むことで、自らの意図を盛り込むための論理的な構成と筆致を学び、かつ、筆者の思考を追うことで、自らの思考や視野を拡大する手がかりとします。		●	●	●	●
	8	<b>古典分野</b> 漢文基礎 訓読の仕方 書き下し文の作り方 漢文入門・故事三編 「狐借虎威」「朝三暮四」	古典分野では、漢文の訓読の方法、書き下し文の書き方から始めます。また、有名な逸話の読解を通して、漢文の知識をさらに広げます。ここで学ぶのは基本的な句法で、句法学習のベースとなるものばかりです。基本的な句法を着実に覚えていきましょう。		●	●	●	●
		<b>現代文分野</b> 小説（二）「清兵衛と瓢箪」	登場人物の行動や考えを物語の進行に即して読み取ります。簡潔な表現、文体を味わいます。		●	●		●
	9	漢文 漢詩の鑑賞「唐詩」	唐詩の鑑賞を通じて基本的な漢詩のルールを理解します。また、「自然」「望郷」「別離」などのテーマの詩を読み、古代中国人のものの見方、感じ方を理解します。		●	●		●
	10	<b>現代文分野</b> 随想「ブナの森で」	自然と人間との関係のあり方を、それぞれの営みにおいて問い直す文章です。構成や展開を確かめながら筆者の主張を的確に読み取っていきます。また、文章で取り扱われているテーマについて、自分なりの考えを持つことを目標にします。 <b>道徳教育を実施</b>		●	●		●
	11							
	12	<b>古典分野</b> 付属語②（助動詞） 過去・完了・推量・推定の助動詞 古文 物語を楽しむ「伊勢物語・芥川」	古典分野では、頻出する助動詞について学習していきます。助動詞を制する者が古典文法を制するといわれるほど、助動詞の学習は重要です。助動詞の意味・活用・接続・他の語との識別法などを、多くの例文を通して完全にマスターしましょう。また、歌物語を通して、和歌を読解する力を身に付けます。		●	●		●

年間学習計画				—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—				重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知	関	思	技	知
3	1	<b>古典分野</b> 付属語③（助動詞） 願望・断定・比況の助動詞 土佐日記 「門出」「帰京」	和歌の修辞技法について理解し、鑑賞に大切な要素であることを理解する。また、時代背景を踏まえ、筆者がどのような意図でこのような設定をしたかを考え、内容理解の一助とします。 また、代表的な日記文学を読み、その表現の面白さを理解します。これまでに学んだ語彙や文法的知識を活かし、適切な口語訳をほどこす力を高めます。 <b>道徳教育を実施</b>	●	●	●	●				
	2	<b>古典分野</b> 付属語④（助詞） 副助詞・接続助詞・係助詞 <b>古典分野</b>	古典分野では古文の主立った助詞の用法を学習します。特に係り結びの法則について理解できるようにします。	●	●	●	●				
	3	<b>現代文分野</b> 小説（三）「なめとこ山の熊」 」	登場人物の行動や考えを物語の進行に即して読み取ります。簡潔な表現、文体を味わいます。	●	●	●	●				